

第2回高知県地域防災力維持確保対策検討委員会 会議要旨

平成25年6月12日(水) 15:30~17:30

高知共済会館 3階 桜の間

1. 出席者

(1) 委員

ア 出席委員(6名)

大年委員長、仙頭委員、西野委員、藤山委員、宮田委員、渡邊委員

イ 欠席委員(3名)

大西委員、高橋委員、中野委員

(2) 事務局

・奥谷土木部長、田所副部長、平田副部長、今西建設管理課長 ほか

2. 議題

- (1) 県内建設業を取り巻く状況等について
- (2) 前回の議論整理と建設業活性化への方向性について
- (3) 検討委員会の今後の議論の方向性について
- (4) その他

3. 議事要旨

○事務局より議題(1)(2)(3)を説明

○議事概要

- ◆ 災害対応策については、その時に本当に動ける人がいて初めて意味を成すものであり、建設業者が栄養失調の状態での時を迎えることの無いようにしたい。
- ◆ 若年労働者の定着については、事業で利益が出ず、事業者に賃金を上げる余裕がなく、専門学校を出て建設業に一度就職しても、次は同じ建設業に就職せず、他の業種に行っている状態。
- ◆ 建設業者の数が多き所は防災力が高いとみれば、高知中央の方は比較的防災力はあるが、地方にいくと手薄になってきているというアンバランスが生じている。
- ◆ 東北の話で直営作業についての評価をするべきなのではないかという資料があったが、そういう観点も含めて今後検討していく必要があるのではないか。
- ◆ 有事の際の発注体制について、漠然としたものでなく形が見えるようなものになっている方が、地元の建設業者も安心して動けるのではないか。

- ◆ 四国については、道路だけでなく海上からの輸送も重要で、耐震強化岸壁の整備なども並行して行っており、かなりの進捗で進んでいる。そういった両面からの対応を図れるよう、具体的に対策を練っていかねばいけない。
- ◆ 公共事業量については、急に事業量が増えることはありがたいが、やはり発注の平準化をお願いしたい。4月～6月の発注の少ない端境期に、技術者を抱えて辛抱しなければならず、そこに力を入れていただければ魅力ある産業につながるのではないかと。
- ◆ 現在の事業では総合評価方式を使っても、日本の建設業者は優秀なので、あまり差がつかず、差別化出来ない。
「幸せを知る高知県に資する事業」として防災と環境に配慮した22世紀のモデル事業ができれば、若者もやりがいを持って携われる業界になるのではないかと。そもそもどのような事業が地域をよりよくするのかということも含めて考えていくことで、豊かな将来への展望が開けてくるのではないかと。
- ◆ 今の建設業には、若年労働者のやりがいがない。建設業者に対する感謝が、日本の風潮として乏しい。災害時などに、建設業界の方々が本当に我々を助けてくれるんだという思いを住民の方々に持ってもらえるような提言を盛り込んでもらいたい。
- ◆ 「生きがいを持っていく」、「生きがいを持ったことで生活できていく」という二本柱ができれば若者も建設業に入ってくると思う。
- ◆ 災害時に、自衛隊・警察・消防団はすぐにテレビにでるが、建設業者は全然写していない。実際、災害の後では地元の方から建設業者によくやってくれたということがものすごくある。悪いことばかりではなく、良い面もだしていただければ。
- ◆ 地域をより良くする事業というものが無いといけない。そういった事業は地域をよく知る建設業者でなければ出来ない仕事。
叩き台の中項目として「幸せを知る高知県の実現に資する事業の立案と実施方法」といった趣旨のものを入れていただき、その小項目として「(新しい)発注者責任」と「発注者と建設業者が一緒に立案する事業」といった項目を入れてもらいたい。
- ◆ 建設業界での若者の少なさと裏表の関係だが、「今持っている技術の継承」の項目も加えてもらいたい。